

強制営巣について考える

『ヘボ』ちゃんの強制営巣について、蜂狂なら誰しも考え、狙っている事だろう・・・
Vも子供の頃からこれが出来たら・・・と考えてきた。が、ドッコイ、そう簡単なものではなかった。2年位前から、安藤さん（博学振りからドクターと呼ぶ）が、積極的に口にするようになり、これを母数は少ないものの、実現している。

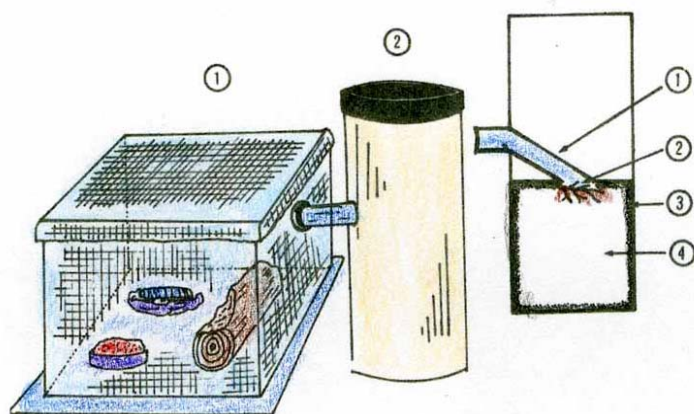
5/8、豊田市の安藤、近藤さんがヘボ談義で遊びに来た・・・そして耳寄りの話を置き土産においていった。 極楽蜻蛉のHPで紹介してくれと・・・ それは・・・

昭和60年にニュー・サイエンス社で発刊した松浦誠教授の書いた『ハチの観察と飼育』と言う本に載っていた。これとドクターの強制営巣のサワリを紹介したい・・・

<その-1> ロスの強制営巣

アメリカのロス氏等は、1981年、北アメリカに住む4種類の『クロスズメバチ』で強制営巣に成功している。この实例を、下図を見ながら紹介する。

図のような円筒形の厚紙で作った飼育箱（内径10cm、高さ15cm前後）と、餌場となる



金網の箱（20×20×15cm前後）の箱を用意し、これを2cm位のパイプで繋ぐ。

飼育室に上面には、枯れた木の細根を接着剤等でシッカリ固定しておく。

金網の中には、①朽ちた木（栗や樺、松等）、②餌：砂糖水（砂糖水や蜂蜜を水で1:1に薄めた物）、生きた小

昆虫（蝇、虻、バッタ、青虫等）を入れておく。

野外で捕まえてきた女王蜂を飼育箱に放す。 餌は、新鮮な物を、毎日、欠かさず与える。

これ等の箱は、温度、光り周期一定の雨が掛らない野外に置く。ロス等は、これで、3割の強制営巣に成功したという・・・

なお、巣を作るまでに4~112日を要したという・・・そして、何れも第1巣盤だけで終わってしまったが、働き蜂は産出されたと言う・・・

まだまだ、かなりの改良の余地があると思われるが、色々と考えさせられる点が多々ある・・・一度、トライしてみたい・・・

<その-2> ドクターの強制管巢を考える・・・



トウモロコシに齧り付く足助の蜂狂一家・・・

蜂狂なら、誰しも、女王蜂を狙い定めた場所や飼育箱に着巢させたいと考えている・・・これを強制着巢と呼んで多くの蜂狂が試行錯誤を繰り返してきた。が、中々、そうは、問屋は卸してくれない・・・vの知る限り、『山の神』：赤座さんが、広大なビニールハウスの中で自然管巢を試みているが、成功したり、しなかったりの様子・・・しかし、この方法は、厳密に言うとは強制管巢と言うには、少々、疑問が残る。広活動域内での自然管巢と言った方が当を得ている。交尾女王蜂の捕獲は、故西尾先生の研究、多くの蜂狂達の改善等で、略、完成の粋に達したと見ていいだろう・・・また、飼育に関しては、これこそ多くの蜂狂の努力の賜物、巨大巢が実現出来る段階に来ている。何れも『ヘボ』飼育の一大革命と考えてもいいのでは・・・素晴らしい出来事だった!!!

残された研究テーマに、誰もが夢見て来た『ヘボの強制管巢・・・』がある。

実は、2005年、この『強制管巢』を実現させた蜂狂がいたのだ・・・豊田市・足助町の蜂狂：安藤登美夫さんだ!!! 東白川村の『タカ研』会長：今井さんから『蜂狂ドクター』の称号を与えられた所以がここにある。まだまだ、資料数は少ないものの、非常に高い確率での実現だった・・・『ヘボ』：2巢、『キロスズメバチ』：2巢の成功例。。。

この知らせを電話で聞いた時、ビックリ仰天、心臓が破裂しそうな衝撃を受けた。

そして、この初期管巢を見る機会に恵まれた。。2004年5月23日の事である。

当日、ドクターが開発した『入母屋式飼育箱』を受け取りに、諏訪の溝口氏と足助町に出向いた。ドクターの作業場には20数個の『入母屋式飼育箱』が所狭しと並んでいて、此処からの遠り取り見取りだった。



飼育箱は目を見張るべく関心が深かったが、これ以上に関心を曳いたのは、現場で『キロスズメバチ』の強制管巢の巢を見せつけられ、青天の霹靂の境地に陥し入れられた・・・

...

その工事場にあったのは『キイロスズメバチ』を『入母屋造りの飼育箱』に強制的に営巣させた2つの巣だった。偶々、蓋を開けて覗いた時、女王蜂は外出中でお留守だった。でも、飼育箱の中蓋の奴真中に営巣初期の巣がブラ下っていた。現物を見ながら説明を聞いたが、『此处に着巣させようとした場所に寸分の狂いもなく営巣してくれた・・・』との事だった。走行している内に女王蜂が帰って来た・・・



話は続く・・・この『キイロ』の他にVが別けてやった『シダクロスズメバチ』の越冬女王蜂でも2巣、場所は山の中だが、強制着巣に成功した・・・と言う話だった・・・合計4巣という事だった。恐るべき蜂狂がいたものだ!!!

此处で、この強制着巣のし方を、概略、聞いたが、正直の所100%は飲み込めなかった??? が、いずれにしても奴豪い事を編み出した物である。二人で話し合い、このノウハウは、当分、○秘にしておこうと言う事になった・・・これには訳がある・・・未熟の蜂狂が充て勘でやると貴重な資源:越冬女王蜂を殺してしまうと言う事である・・・これは如何にもモゴイ(可哀相)事だったからである・・・

そして、1年が過ぎた。ある時、ドクターに『shy...、the Vespula』の企画の話をした。

『ドクターの強制営巣手法は画期的で、実に素晴らしい・・・この機会にオープンにして、蜂狂の為に一役貢献しようじゃあないか?・・・』と・・・

そして原稿依頼をした・・・正月から書き始めていたようだ・・・が、ドクターは体調を崩され執筆が尽ならなくなった・・・絶好の機会だったが残念でならない・・・

またの機会にしよう・・・多分、近い将来、改訂版を出す事になるう??その時にでも。

しかし、これ丈の業績をこの程度の話で終わらせたのでは無念でならない・・・

ある程度、不正確を覚悟の上で、ドクターから聞いたエキスを紹介しておきたい・・・

『冬眠女王蜂をエーテル、もしくは、低温処理をして、完全に、麻痺状態にして、これを着巣させたい場所にタカラ(留まる)せる。この場合、女王蜂を蜜蝋等使って軽く固定するらしい・・・麻酔から醒めた女王蜂は、この場所を自分のこれからの住み家としてコンピューター(脳裏)にインプットする・・・そして、此处を足場に営巣活動を開始する・・・』と言う。これ等の各プロセスには夫々ノウハウが隠されているのは当然であるが、それにしても奴豪い技術開発をしたものだ・・・感服に値する!!!

取敢えず、これ丈の技術公開でも素晴らしい内容だと思う・・・蜂狂を代表して感謝申し上げますねばならない。ドクター、ゴッツァンでーす・・・オオキニ!!!